

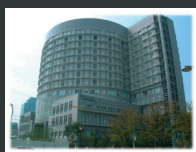
手術時参照用とカンファレンス用に大画面ディスプレイを導入。DICOM対応と高精細映像により完全フィルムレス化をサポート。

お客様のニーズ・課題

2009年8月に完全フィルムレス化を実現。手術室内の参照用ディスプレイおよびカンファレンスルーム用ディスプレイとして、DICOMに対応した大画面ディスプレイの導入を検討していた。

導入効果

手術室とカンファレンスルームに計15台のFWD-S47H1を導入。照明を点けたまま映像や資料が読み取れる輝度の高さや鮮明な白黒階調表示は、現場の医師からも高い評価を得ている。



財団法人田附興風会医学研究所 北野病院様

1928年に京都大学医学部に付属する臨床医学研究用として開設して以来、80年以上の歴史を持つ北野病院様は、地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供すること、病む人の立場に立った安心の得られる病院を目指すこと、医学研究所の機能を持つ総合病院として教育、研修、臨床研究に努めることの3つを主要な使命としています。2001年の新病院竣工以来、施設と設備の充実や、診療をはじめとした病院機能システムの改善、優秀な人材のリクルートと育成に努めています。

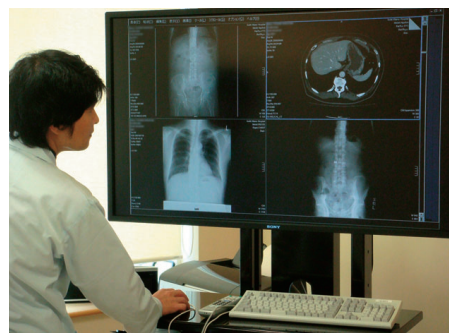


副院長 兼 放射線科部長 光野重根先生 (京都大学医学部卒)
放射線技師係長 高峰景敏先生 (信州大学工学部卒)
にお話を伺いました。

導入背景

病院内のフィルムレス化にあたり大画面ディスプレイを導入したい。

当病院では、2001年に病院を新築・移転し、今年（2009年）8月に完全フィルムレス化とするなど、計画的に病院内のペーパーレス環境を整えてきました。大画面ディスプレイに注目し、カンファレンスでの使用を検討したのは、3、4年前のことになります。このときには、DICOMガンマ対応の大型ディスプレイがなく、液晶ディスプレイの値段も37インチで50万円近くするなど非常に高額だったため、導入するには至りませんでした。今年のフィルムレス化にあたって改めてディスプレイを調べたときには、性能が大幅に向上し、かつ価格が下がっていて驚きました。さらに、タイミングよくソニー製品を紹介されたこともあり、手術室内の参照用ディスプレイおよびカンファレンスルーム用ディスプレイとして、本格的に導入を検討することになりました。（光野副院長）



手術室での参照用ディスプレイ、およびカンファレンスルーム用ディスプレイとして導入。

選定理由

DICOMガンマ対応、鮮明な白黒階調表示などを評価。

ソニーの47V型フルHD液晶ディスプレイFWD-S47H1は、画面の明るさが印象的でした。カンファレンスなどで資料をディスプレイに表示した場合、通常は室内の照明を消さなければなりませんが、FWD-S47H1は輝度が高く、照明を点けたままでも画面に表示された資料が読み取れます。プレゼンテーションを行う場合には手元の資料などを確認することもありますので、照明を点けたまま進行できるのは大きな利点です。また、液晶は黒の表示が弱いと聞いていましたが、FWD-S47H1では鮮やかに表示されていることにも驚きました。放射線画像の白黒階調も鮮明です。このような高輝度・高解像度による映像表示と、DICOMガンマ設定機能が搭載されていることを一番の理由として導入を決定しましたが、製品デザインやコストパフォーマンス、保守サポートがある点も高く評価しました。（光野副院長・高峰先生）



高輝度、高精細な映像表現、およびDICOMガンマ対応に高評価。

● 導入効果

高輝度・高精細な映像により手術やカンファレンスをサポート。

2009年4月に、11部屋の手術室に1台ずつ、4部屋の会議室に1台ずつと、計15台のFWD-S47H1を導入しました。手術室は壁掛け設置とし、カンファレンスルームはディスプレイスタンドを利用して、参加人数にあわせた室内レイアウトに応じて移動できるようにしています。FWD-S47H1の画面に表示するのは、X線映像など静止画像が中心です。動画再生は、心臓カテーテル映像（30フレーム/秒程度）の確認などで利用していますが、スムーズに再生できています。カンファレンスルームは、医師だけでなく事務局などの会議にも使用しています。従来はプロジェクターを使ってスクリーンに投影していましたが、現在はPCの映像をそのままFWD-S47H1に出力できるようになり、資料の読み取りや操作そのものが非常に楽になったと感じています。（光野副院長）

導入当初は、医療映像をシャーカステンではなくディスプレイで参照することに抵抗を感じる先生もいらっしゃいましたが、慣れてくるに従って、便利なものとして認知されてきたようです。ディスプレイに画像表示するためのPACSの操作も、徐々に理解されていくと思います。院内にフィルムレス化が浸透した将来は、システム全体の操作にも慣れて、ディスプレイを幅広い用途でマルチ利用できそうだと考えています。（高峰先生）



手術室内壁面に設置されたFWD-S47H1。

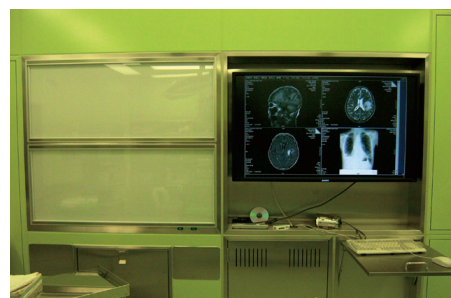


カンファレンスルームには架台式で設置。さまざまな用途で使用。

● 今後の展望

手術室のディスプレイの多面化など、様々な活用方法を検討予定。

FWD-S47H1を導入した11部屋の手術室には、シャーカステンもまだ残っていますが、いずれはFWD-S47H1と入れ替えて、ディスプレイ2面として活用したいと考えています。また、各科で記録している術中映像を、チーム医療への貢献などのためにFWD-S47H1の大画面に表示してはどうかという意見も出ています。2面あれば、手術映像と放射線映像などを同時に表示することもできますね。この他にも、様々な活用方法を検討していく予定です。（光野副院長）



将来的にはシャーカステンをディスプレイに置き換え、横2面での運用を視野に。

パブリックディスプレイの商品情報をご覧ください。

sony.jp/public-display/

ソニーマーケティング株式会社／〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

商品に関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日、および年末年始は除く）

2009年11月現在